大阪医科大学学報

第77号
（インターネット版）
平成20年８月

南天の花

◆目　次◆

文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」……2
新任教授紹介 ……3
規程関係 ……4
永年勤続表彰 ……6
叙勲・受賞等について ……9
平成19年度決算について……10
寄付金報告……15
研究助成金等について……16
中山国際医学医療交流センター……17
医学会春季学術講演会……23
平成20年度　第Ⅰ回　学位記授与式……24
学内行事……26
看護専門学校関係……28
行事日程……29
市民公開講座……30
大学交流センター事業市民講座……31
感染対策室関係……32
病院医療相談部……33
主要会議報告……34
学報アンケート回答結果……37
保健管理室からのお知らせ ……38
俳句……40
第39回市民フェスタ2008高槻まつりに参加しました…41

平成20年度 文部科学省の大型プロジェクト
「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に採択さる

今般、文部科学省より公募のありました標記事業に、本学が主幹大学として申請しておりました「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」が採択されましたのでご報告いたします。

若手医師のキャリア構築を支援する国家的プロジェクトであるこの大型事業には全国の28大学からの申請があり、19件の選定となっていますが、国立大学以外では本学と慶応義塾大学のみの採択であり大変名誉なことと喜んでおります。

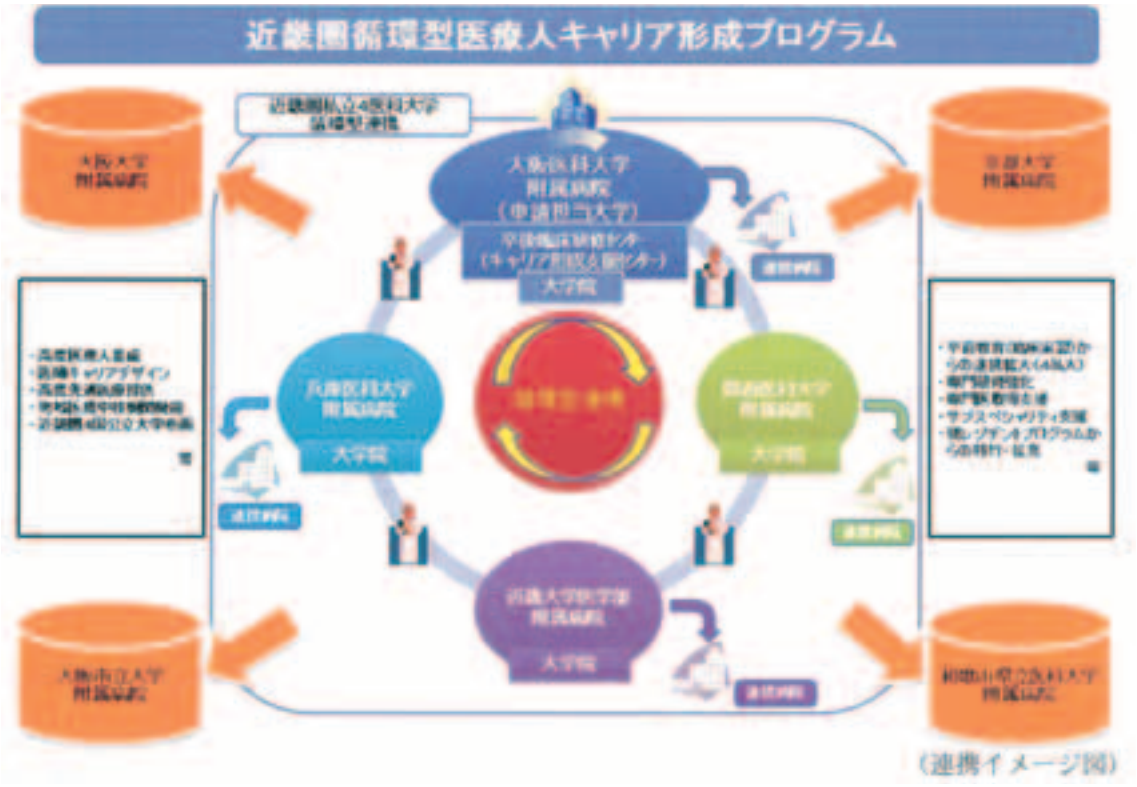
本学から提案したプログラムは、近畿圏の４私立医科大学（本学、関西医科大学、兵庫医科大学、近畿大学医学部）と近隣の４国公立大学医学部（京都大学、大阪大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学）及び関連病院が連携することにより若手医師のキャリア形成を支援するものとなっています。

具体的には、本学を含む近畿圏の４私立医科大学の各診療科の持つ実績と経験により策定した134のコースから構成されており、連携する大学病院同士がそれぞれの得意分野による相互補完を図り、若手医師が各大学病院や関連医療機関を循環しながら修練や幅広い経験を積むことのできる環境を整備することで、安心して研修に専念でき、質の高い専門医や臨床研究者を養成するキャリアシステムの構築を目指すものであります。

本プログラムは今秋10月にスタートいたします。全学一丸となって取り組む所存でありますので、今後一層のご協力やご支援をお願いいたします。

平成20年８月４日

理事長　　國澤　隆雄
学　長　　植木　　實
研究機構長　　谷川　允彦
卒後臨床研修センター長　米田　　博



（連携イメージ図）

新任教授（リハビリテーション医学）紹介

昭和56年、大阪医科大学附属病院にリハビリテーション（以下、リハ）センターが開設されて以来、大学病院としての特性を活かした急性期リハを中心に提供して参りましたが、この度、先達のご努力、また、各診療科のご協力により、急増するリハ医学へのニーズに応えるべく、臨床の充実、医学教育の向上、研究の発展を目標に、平成20年５月１日をもってリハ医学教室が新しく開講されました。そして、同日付で、私が当教室の運営を担当させていただくことになりました。

私は昭和61年に神戸大学を卒業後、大学院にて「関節リウマチにおける関節破壊機序」に関する基礎研究を開始しました。そして、神戸大学医学部に奉職して以来、運動機能障害に対するリハ医学に関する臨床および研究に従事して参りました。リハ医学は、様々な運動・精神障害を負った方々に対して、疾病や外傷の発症直後から地域に戻るまで横断的、かつ切れ目のない介入を行い、その人がその人らしく生きていくための、お手伝いをさせて頂くことを目標としています。これまで、リハ＝後療法という時代が長く続きましたが、リハ前置主義となり、廃用症候群の発症予防を目的とした急性期からのリハ介入がいかに重要か、適切な時期における回復期リハが運動機能予後をどれほど大きく改善するかということが認知されてきています。

このような追い風の中、大学病院内各診療科はもとより、地域医療機関との連携を密にとりながらリハ科としての専門性と臨床力を磨き上げ、急性期から回復期、さらに維持期にいたるまで質の高いリハ医療を提供できるようになりたいと思っています。また、リハを担う人材育成を目的に、卒前・卒後の医学教育の向上にこれまで以上に注力致します。一方、研究面では、再生医学との連携など先端的なリハ研究を探求し、様々な領域での協働を進めたいと考えます。

浅学非才な私ですが、新しい教室のみならず本学のさらなる発展に粉骨砕身、努力する所存です。今後とも、ご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

リハビリテーション医学
佐浦　隆一　教授

昭和35年４月27日生
昭和61年３月　神戸大学医学部医学科卒業
昭和61年７月　神戸大学医学部整形外科学教室入局
平成元年７月　カナダ・クイーンズ大学整形外科関節炎研究室　客員研究員
平成４年１月　神戸大学大学院医学研究科（病理学）博士課程修了
平成５年４月　神戸大学医学部付属病院　整形外科　助手
平成５年６月　神戸大学医学部付属病院　理学療法部　助手
平成８年10月　神戸大学医学部保健学科　助教授
平成16年10月　神戸大学医学部付属病院　患者支援センター副センター長（兼任）
平成18年４月　兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター　リハビリテーション西播磨病院副院長　リハビリテーション科部長
平成19年４月　神戸大学連携大学院　リハビリテーション運動機能学　客員教授（兼任）
平成20年５月　大阪医科大学　総合医学講座　リハビリテーション医学教室　教授

規程関係

規程改正

次の規程が改正されました

■大阪医科大学大学院学則（関係条文新旧対照表）

※別表の掲載は割合しました

新	旧
第６条　医学研究科に**医学専攻**を置く。 （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） ２　**医学専攻に次のコースを置く。** **予防・社会医学研究コース** **生命科学研究コース** **高度医療人養成コース** **再生医療研究コース** **先端医学研究コース**	**第６条**　医学研究科に**次の専攻**を置く。 **形態系** **機能系** **社会医学系** **内科系** **外科系** ２　**前項のほか、国家プロジェクト等の実施に基づき、各専攻にコース等を設ける場合については、別表に定めるものとする。**
第７条　医学研究科の収容定員は入学定員54名、総定員216名とする。 （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除）	**第７条**　医学研究科の収容定員は入学定員54名、総定員216名**とし、各系専攻別入学定員を次のとおり**とする。 **形態系　10名** **機能系　８名** **社会医学系　４名** **内科系　14名** **外科系　18名**
第８条　医学研究科の在学年限は**４年を標準とし、特に優れた研究業績を上げた者については、３年以上在学すれば足りるものとする。ただし、指導教授**を経て学長の許可を得た場合は、在学期間を８年まで延長することができる。	**第８条**　医学研究科の在学年限は**４年を標準とする。ただし、専攻授業科目担当教授（以下担当教授という。）**を経て学長の許可を得た場合は、在学期間を８年まで延長することができる。
第９条　医学研究科医学専攻における授業科目及び単位数は別表の通りとする。 （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除） （削　除）	**第９条　医学研究科における専攻別授業科目及び各専攻共通授業科目は次のとおりとする。** **形態系　解剖学（Ⅰ）（Ⅱ）　病理学（Ⅰ）（Ⅱ）** **微生物学** **機能系　生理学（Ⅰ）（Ⅱ）　生化学　薬理学** **救命病態機能学　生体分子学** **社会医学系　衛生学・公衆衛生学　法医学** **内科系　内科学（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）　神経精神医学** **小児科学　皮膚科学　放射線医学** **病態検査学** **外科系　外科学（一般・消化器外科学　胸部外科学** **脳神経外科学）　整形外科学　眼科学** **耳鼻咽喉科学　産婦人科学　麻酔科学** **泌尿器科学　口腔外科学　形成外科学** **各専攻共通　統合講義　　共同利用実験施設セミナー** **２　前項に関わらず、国家プロジェクト等の実施に基づく授業科目については、別表に定めるものとする。**

新	旧
第10条　授業科目の履修方法は次のとおりとする。 æ，学生は**所定の授業科目30単位以上（統合講義９単位、共同利用実験施設セミナー１単位を含む）**を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。 æ„ **指導教授が研究指導上必要と認め、かつ、他大学院等との間において受け入れに関する協議が行われている場合には、研究科委員会の議を経て、他大学院等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、必要な授業科目の単位を修得していることを原則とする。** æ″ **大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例により、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。** æ» 第１号**、第２号**および前号のほか、履修方法の細目は別に定める細則による。	**第10条**　授業科目の履修方法は次のとおりとする。 æ，学生は**４年以上在学して専攻授業科目20単位以上、統合講義９単位、共同利用実験施設セミナー１単位合計30単位以上**を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、３年以上在学すれば足りるものとする。 æ„ **前条第２項に定める国家プロジェクト等の実施に基づき授業科目を履修する場合には、４年以上在学して別表に定める授業科目及び履修方法に従い単位を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、３年以上在学すれば足りるものとする。** （新　設） æ″ 第１号および前号のほか、履修方法の細目は別に定める細則による。
第36条　大学院の授業及び研究指導を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師及び助教をもって充てる。必要ある場合は**研究施設等**所属の教授等をこれに充てることがある。	**第36条**　大学院の授業及び研究指導を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師及び助教をもって充てる。必要ある場合は**研究施設**所属の教授等をこれに充てることがある。
附　則 **この改正は、平成21年４月１日から施行する。** **ただし、平成20年度以前より在学するものについては、従前の例（形態系専攻、機能系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻）による。**	

■大阪医科大学学則　（平成20年４月１日改正）―
■大阪医科大学大学院ファカルティーディベロップメント委員会規程　（平成21年４月１日改正）―
■大阪医科大学大学院給付奨学金支給規程　（平成21年４月１日改正）―
■大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程　（平成20年７月１日改正）―
■大阪医科大学附属看護専門学校学則　（平成21年４月１日改正）―
■図書館運営委員会規則　（平成20年４月１日改正）―
■中山国際医学医療交流センター海外交流支援制度取扱要領（平成20年７月１日改正）―

※上記各規程については、Online規程集（学内限定）にてご確認下さい。
なお、都合上Online規程集の更新が遅れる場合がありますのでご了承下さい。

永年勤続表彰

平成20年度　永年勤続表彰

日　　時：　平成20年 6 月 2 日（月）10時～
35年勤続表彰　5 名
20年勤続表彰　24名
場　　所：　別館　3 階　大学院多目的講義室

勤続35年

足立　鈴代（中央放射線部・技術員）
袖岡　秀幸（中央放射線部・主任（診療放射線技師））
虎谷　一仁（中央放射線部・主事（診療放射線技師））
橋本　千和子（病院看護部・看護事務員）
宮﨑　時子（法医学・助教）
（50音順）

勤続35年表彰者

永年勤続表彰を受けて

中央放射線部・主任
（診療放射線技師）　袖岡　秀幸

この度、35年の表彰を受けました。私は昭和48年 4 月 1 日より大阪医科大学に入職し現在までお世話になっています。この間、いろんな出来事がありました。入職当時は6号館辺りに木造の病棟があった事を思えば今の施設には目を見張るものがあります。また、院外に目を向けると、この年は石油危機で高度成長に終止符を打った年でもあり、また、沖縄国際海洋博覧会開催までと日本経済も目まぐるしく回った時代でもありました。院内に目を向ければ私が所属する放射線科も中央放射線部と名を改め、コンピューターが検査から診断までにも入り込み、今やハイテクなしでは仕事ができない毎日です。その中で、ここまで35年を勤め上げた事に今更ながら考え深く思っています。私がここまで勤め上げられたのは、偏に病院のスタッフのチームワークに寄る賜物と思っています。これといって資質のない私ですが、何時の時代も人の繋がりをこれからも大事にしたいと考えています。これだけが唯一私の取り柄ですし、今の社会にも大事なことではないでしょうか。

最後に今まで接して来た患者様、病院スタッフとの信頼関係を本に此処まで指導、励まし下さった職場上司や同僚に感謝すると供に今後一層のご支援ご鞭達を賜りますようお願いする次第です。

勤続20年

泉野　博美（中央放射線部・事務員）
岩木由美子（生化学・事務員）
岩橋　　朗（庶務課・課長）
浦井佐津子（栄養部栄養課・技能員（調理師））
大井　一英（薬剤課・技術員（薬剤師））
大塚いずみ（病院看護部・看護師主任）
大森　直樹（中央放射線部・主事（診療放射線技師））
奥野　隆男（実験動物センター・技術員）
小野　茂喜（施設課・主事（汽缶担当））
楞田　眞弘（リハビリテーション科・副主幹（理学療法士））
金江　由香（病院看護部・看護師長代理）
賀門　有井（栄養部栄養課・用務員）
田嶋　泰子（図書館課・事務員）
田村　明敬（法医学・助教）
寺井　陽彦（歯科口腔外科学・講師）
寺田　理恵（総務部人事課付・事務員）
中山サツキ（病院看護部・看護師長）
花本富士子（物流センター・事務員）
林　　秀行（生化学・教授）
東山　智宣（中央検査部・主任（臨床検査技師））
福富　美樹（病院看護部・看護師長）
藤原　寛子（病院看護部・看護師長）
松上美由紀（病院看護部・看護師長）
守本　俊子（附属看護専門学校・教務主幹）

（50音順）

勤続20年表彰者

永年勤続表彰を受けて

看護専門学校・教務主幹　守本　俊子

この度、大学・病院の23名の方々と共に勤続20年の表彰を受けました。同じく表彰を受けた方々に、看護学校時代の同級生や入職後同じ職場で看護の礎を築き励ましあってきた友人がいることはこの上ない喜びです。

入職した頃はバブル最盛期でした。看護師として胸部外科（現、心臓血管・呼吸器外科）病棟に配属になった私は、社会情勢を省みる間もなく病と闘う患者さんを理解するために毎日必死でした。入職時は、今年3月で閉鎖になった愛泉寮に入寮していました。当時の愛泉寮は入寮者がとても多く、初めは3人部屋で生活していました。同室者に気を配りながら三交代勤務をしたり、日勤終了時に一つの部屋に集まってお菓子パーティをしたりしました。冷たい階段に座り込んで恋愛相談をしたことも…今となっては、懐かしい思い出です。

永年勤続表彰

看護場面では、病棟の特殊性から病状の急変に立ち会うことも多く、クリティカルケアとは何かを常に考えさせられました。また、専門的なことを学び続けなければこの仕事の継続は難しいことを痛感し、向学心のない自分に嫌気がさしたこともあります。そんな中でも頑張ることができたのは、患者様との出会いから看護の喜びを感じたり、勤務内外で先輩や後輩とのつながりや支えがあったからだと思います。8年間の臨床経験を経て看護専門学校に異動となり、看護の魅力を学生に語る立場となりました。「理想の看護教育とは？」「効果的な個別・集団指導とは？」など、基礎教育現場でも数々の悩みを抱えていますが、複雑に進展・高度化する医療現場で働ける良看護師育成のために、日々学生と向き合っています。私生活面では2児の母親となり、仕事と家庭のバランスを保つことも大きな課題です。

この20年間で、総合研究棟や看護専門学校校舎など多くの建物が建設されました。また、平成18年３月で閉校となった旧第二看護学科は登録有形文化財となり、歴史資料館として市民に公開されています。バブル崩壊、経済成長の鈍化など変化の激しい時代に大阪医科大学で働くことができたことに感謝しながら、これからも人との出会いを大切に、再び戻らない貴重な時を歩んでいきたいと思います。

最後になりましたが、この20年間お世話になっている上司や先輩、同僚の皆様、若い活力を与えてくれている看護学生、そして何よりも私に看護への意欲と情熱を与えてくださった患者様に改めて感謝いたします。

叙勲について

平成20年「春の叙勲」で、永年の医学への貢献に対し、元学長の藤本　守名誉教授が、瑞宝中綬章を受章されました。

京都府立医科大学卒業
京都府立医科大学講師（第一生理学教室）
岐阜大学医学部助教授（第二生理学教室）
大阪医科大学教授（第二生理学教室）
大阪医科大学　学長
現在、大阪医科大学名誉教授

受賞等について

第96回　日本泌尿器科学会総会総会賞受賞
泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室　能見　勇人　助教

2008年４月24日～４月27日にパシフィコ横浜で開催されました第96回 日本泌尿器科学会総会（会長　西村　泰司）において、総会賞を受賞されました。
（総会ホームページ： http://www.congre.co.jp/jua2008/）

演　題
『パーフォリン・ファスリガンド両欠損マウスにおける
アロ移植されたCTL感受性腫瘍細胞の急性拒絶』

大阪府看護事業功労者表彰受賞
病院看護部　小野　恵美子　部長代理

平成20年５月９日（金）、長年にわたり、看護業務に精励し保健医療の向上に大きな功績のあった方々に対する表彰式が、ナーシングアート大阪（大阪府看護協会）で行われました。

平成19年度決算について

平成19年度決算は、本年５月31日開催の理事会において承認され、同日開催の評議員会において報告されました。
以下、資金収支を中心にその概要を説明します。

（１）資金収支決算について

＜資金収入＞

（１）学生生徒等納付金収入
対前年度比８百万円増収となりました。医学部の学納金は減少しましたが、反面看護専門学校の定員増による学納金の増加もあり、結果的には微増となりました。

（２）手数料収入
医学部の受験者数が前年度比310人増加したため12百万円の増収となりました。

（３）寄付金収入
対前年度比32百万円の増収となりました。奨学寄附金が前年度比72百万円減少しましたが、創立80周年記念事業募金が開始されたことにより特別寄付金は104百万円増加し、全体で32百万円の増収となりました。

（４）補助金収入
対前年度比131百万円の減収となりました。経常費補助金については対前年度比93百万円の減収（6.7%減）となりましたが、配点がランクダウンしたことと、教員の補助単価の減額が原因となっております。

（５）資産運用収入
対前年度比47百万円の減収となりました。昨夏のサブプライム問題発生の影響を受けて、運用している債券の運用利回りが大きく低下したことによります。

（６）資産売却収入
対前年度比で21百万円の減収となりました。昨年度と大きな相違はありませんが遊休不動産の整理という見地から教員宿舎を売却し、その売却益13百万円を計上しています。

（７）事業収入
対前年度比150百万円の減収となっています。治験収入が92百万円減少したこと、看護師の食費の給与天引き方式を廃止し関連会社のプリペイドカード購入方式に変更したことによる減収が原因となっております。

（８）医療収入
対前年度比で957百万円の大幅増収となりました。入院収入で809百万円、外来収入で148百万円増加しました。
入院収入の増加要因として、平均在院日数の短縮及び手術件数の増加による入院単価の上昇、さらに患者数の増加を挙げることができます。

（９）雑収入
対前年度比で61百万円の減収となりました。医師賠償保険金が72百万円入金となりましたが、逆に退職金財団交付金収入が144百万円減少となったことがその原因となっています。

（10）借入金収入
対前年度比2,635百万円の増加となりました。運用資金の借入を満期に合わせ継続したためです。

＜資金支出＞

（1）人件費支出
対前年度比240百万円の減少となりました。昨年度は早期退職優遇制度の最終年度であり退職金が増加しましたが、今年度はこのような特殊要因がないためです。

（2）教育研究経費支出
対前年度比で181百万円の支出増加となりました。修繕費は対前年度比235百万円減少しましたが、医療収入の増加による医療経費の増が346百万円ありこのような結果となっております。

（3）管理経費支出
前年度比35百万円の支出減少となりました。委託費手数料が115百万円、委託費役務費が40百万円減少したものの賃借費の増加、医療和解金の増加により35百万円の支出減少に留まりました。

（4）借入金利息支出
前年度比12百万円減少しました。借入金の返済に伴う借入金総額の減少がその原因となっています。

（5）借入金返済支出
借入金収入でも説明いたしましたが運用資金の借入を短期に継続したため計数が増えています。

（6）施設関係支出
対前年度比403百万円の減少となりました。前年度は城北キャンパスの購入、歴史資料館の設置をしましたが本年度は大きな投資がないためです。

（7）設備関係支出
対前年度比95百万円の減少となりました。教育研究用機器で130百万円減少しましたが医療用機器で44百万円増加しております。

（8）繰越支払資金
平成19年度決算においても前年度に引き続き繰越支払資金が大幅に減少しております。今後共同学部の設置、病院施設の建替、電子カルテの導入等巨額の資金を要する事業を速やかに遂行するためには、資金力の充実が喫緊の課題でもあります。

（2）消費収支決算について

帰属収支差額は857百万円のマイナスとなりました。一般企業でいう赤字となっております。前年度と対比して150百万円悪化しましたが、前年度はさわらぎキャンパスの売却に伴う特別利益が622百万円計上されており実質は1,329百万円の赤字であったこと、今年度は図書の廃棄分219百万円を特別損失として計上しており実質赤字は638百万円であることを勘案すると実質691百万円の収支改善と考えられます。

（3）貸借対照表について

資産から負債を控除した純資産は21,544百万円で、現在のところ教育・研究・診療に必要な資産を有しているといえます。
但し、流動資産から流動負債を控除した運転資金は、現在27億円とかなり減少してきており要注意ということがいえます。

決　算

単位：百万円

平成19年度資金収支決算（前年度対比）

	勘定科目	19年度決算額	構成比率%	18年度決算額	構成比率%	増減
収入	学生生徒等納付金収入	3,428	9.4	3,420	10.0	8
	手数料収入	124	0.3	112	0.3	12
	寄付金収入	656	1.8	624	1.8	32
	補助金収入	1,461	4.0	1,592	4.7	-131
	資産運用収入	402	1.1	449	1.3	-47
	資産売却収入	813	2.2	834	2.4	-21
	事業収入	241	0.7	391	1.1	-150
	医療収入	20,249	55.5	19,292	56.5	957
	入院収入	14,975	41.0	14,166	41.5	809
	外来収入	5,163	14.1	5,015	14.7	148
	雑収入	383	1.0	444	1.3	-61
	借入金等収入	3,000	8.2	365	1.1	2,635
	前受金収入	669	1.8	659	1.9	10
	その他の収入	5,316	14.6	4,458	13.1	858
	資金収入調整勘定	-4,717	-12.9	-4,513	-13.2	-204
	前年度繰越支払資金	4,485	12.3	6,018	17.6	-1,533
	収入の部合計	36,510	100.0	34,145	100.0	2,365

	勘定科目	19年度決算額	構成比率%	18年度決算額	構成比率%	増減
支出	人件費支出	12,877	35.3	13,117	38.4	-240
	教員人件費	4,082	11.2	4,077	11.9	5
	職員人件費	8,068	22.1	8,029	23.5	39
	退職金	607	1.7	896	2.6	-289
	教育研究経費支出	10,848	29.7	10,667	31.2	181
	医療材料費	6,721	18.4	6,375	18.7	346
	管理経費支出	2,106	5.8	2,141	6.3	-35
	借入金等利息支出	86	0.2	98	0.3	-12
	借入金等返済支出	4,032	11.0	517	1.5	3,515
	施設関係支出	637	1.7	1,040	3.0	-403
	設備関係支出	550	1.5	645	1.9	-95
	資産運用支出	818	2.2	667	2.0	151
	その他の支出	3,713	10.2	3,708	10.9	5
	資金支出調整勘定	-2,451	-6.7	-2,941	-8.6	490
	次年度繰越支払資金	3,294	9.0	4,485	13.1	-1,191
	支出の部合計	36,510	100.0	34,145	100.0	2,365

単位：百万円

平成19年度消費収支決算（前年度対比）

	勘定科目	19年度決算額	構成比率%	18年度決算額	構成比率%	増減
収入	学生生徒等納付金	3,428	12.7	3,420	12.7	8
	手数料	124	0.5	112	0.4	12
	寄付金	687	2.5	631	2.3	56
	補助金	1,461	5.4	1,592	5.9	-131
	資産運用収入	402	1.5	449	1.7	-47
	資産売却差額	8	0.0	622	2.3	-614
	事業収入	241	0.9	391	1.5	-150
	医療収入	20,249	75.0	19,292	71.6	957
	入院収入	14,975	55.5	14,166	52.6	809
	外来収入	5,163	19.1	5,015	18.6	148
	雑収入	387	1.4	444	1.6	-57
	帰属収入　【A】	26,987	100.0	26,953	100.0	34
	基本金組入額（▲）	-1,796	-6.7	-1,824	-6.8	28
	消費収入の部合計　【B】	25,191	93.3	25,129	93.2	62

	勘定科目	19年度決算額	構成比率%	18年度決算額	構成比率%	増減
支出	人件費	12,870	47.7	13,094	48.6	-224
	教員人件費	4,082	15.1	4,077	15.1	5
	職員人件費	8,068	29.9	8,029	29.8	39
	退職金	1	0.0	185	0.7	-184
	退職給与引当金繰入	598	2.2	687	2.5	-89
	教育研究経費	12,360	45.8	12,117	45.0	243
	医療材料費	6,723	24.9	6,379	23.7	344
	管理経費	2,275	8.4	2,306	8.6	-31
	借入金等利息	86	0.3	98	0.4	-12
	資産処分差額	228	0.8	23	0.1	205
	徴収不能額	25	0.1	22	0.1	3
	消費支出　【C】	27,844	103.2	27,660	102.6	184

役務費支出	1,284	4.8	1,326	4.9	-42

帰属収支差額　【A－C】	-857	-3.2	-707	-2.6	-150
消費収支差額　【B－C】	-2,653	-9.8	-2,531	-9.4	-122

決　算

単位：百万円

平成19年度貸借対照表（平成20年3月31日現在）

勘定科目			本年度末	前年度末	増減
固定資産			30,478	31,924	-1,446
	有形固定資産		25,486	26,180	-694
		土地	4,516	4,516	0
		建物	14,310	14,537	-227
		構築物	252	260	-8
		教育研究用機器備品	3,580	3,947	-367
		その他の機器備品	197	189	8
		図書	2,622	2,730	-108
		車両	9	1	8
		建設仮勘定	0	0	0
	その他の固定資産		4,992	5,744	-752
		電話加入権	3	3	0
		保証金	13	12	1
		有価証券	1,513	2,311	-798
		長期貸付金	431	355	76
		退職給与引当特定預金	500	600	-100
		退職年金引当特定預金	482	513	-31
		設備拡充資金引当資産	1,850	1,850	0
		第３号基本金引当資産	200	100	100
流動資産			7,537	8,482	-945
		現金預金　（ａ）	3,294	4,485	-1,191
		未収入金　（ｂ）	4,058	3,823	235
		有価証券　（ｃ）	0	0	0
		貯蔵品	64	66	-2
		前払金	109	100	9
		仮払金	12	8	4
資産の部合計　【Ａ】			38,015	40,406	-2,391

勘定科目			本年度末	前年度末	増減
固定負債			11,215	11,853	-638
		長期借入金	3,181	3,807	-626
		退職給与引当金	7,565	7,572	-7
		学校債	469	474	-5
流動負債			5,256	6,153	-897
		短期借入金　（ｄ）	1,626	2,027	-401
		未払金　（ｅ）	2,351	2,852	-501
		前受金	669	659	10
		預り金　（ｆ）	610	615	-5
		仮受金	0	0	0
負債の部合計　【Ｂ】			16,471	18,006	-1,535

純資産【Ａ－Ｂ】	21,544	22,400	-856
運転資金(ａ)+(ｂ)+(ｃ)-(ｄ)-(ｅ)-(ｆ)	2,765	2,814	-49

■創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

〈寄付金申込者〉

平成20年４月１日から７月11日までの間の寄付金入金件数は、40件、金額は8,660,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成20年７月11日までの寄付金入金件数は232件、金額は81,480,000円です。

（順不同・敬称略）

三和理研株式会社　有限会社すばる印刷　仁泉会尼崎伊丹支部　特定医療法人博進会南部病院
株式会社乃村工藝社　医療法人微風会　シンワ株式会社　ＡＩＵ保険会社関西営業本部
株式会社ハーフ・センチュリー・モア　大阪ヤクルト販売株式会社　阪急タクシー株式会社
株式会社サンコンタクトレンズ　株式会社コーリン　高槻市薬剤師会
吉永　尚子　浅井　寛　須田　哲史　西本　泰久　前田壮二郎　加納　守男　斉藤　博
俵　正市　小川　拓　清木　康雄　礒田　洋三　野木　渡　木村　敦　木村由美子
石河　清彦
匿名９件

■大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

〈入会者〉

平成20年４月11日から７月11日までの間の入会者数は、32名です。
ここに入会していただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成20年７月11日までの寄付金入金件数は227件、金額は5,020,000円です。

（順不同・敬称略）

石川　俊明　小林　悦子　千原精志郎　鳴海　善文　辻　求　芝山　雄老　金山萬里子
河野　公一　西村保一郎　南　敏明　奥田　準二　出口　寛文　亀谷　英輝　金村　昌徳
清水　宏泰　瀧内比呂也　島本　史夫　林　秀行　植木　麻理　林　道廣　野村　栄治
朝日　通雄　古谷　榮助　山田　隆司　寺井　陽彦　奥田喜代司　小森　剛　島原　政司
猪俣　泰典　鈴木　周平　近藤　富香　柏木　充

※フレンズ会ご入会についてのお問い合わせ
募金推進本部　072－683－1221（内線2827）　または　072－684－7243（ダイヤルイン）

■教育環境整備寄付金の応募状況について

〈寄付金申込者〉

平成20年４月１日から７月11日までの間の寄付金入金件数は、22件、金額は52,500,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

（順不同・敬称略）

医療法人大和会
田中　満　河合　尚樹　神部　賢一　石谷　城宏　中山　正　関根　康弘　阿部　守
杉田　正雄　金　花仙　平野　正満　吉迫　康邦　土居治代司
匿名９件

■「旧別館」保存事業・「歴史資料館」設置に係る寄付金の応募状況について

〈寄付金申込者〉

平成20年１月１日から７月11日までの間の寄付金入金件数は、３件、金額は122,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成20年７月11日までの寄付金入金件数は124件、金額は41,819,540円です。

（順不同・敬称略）

藤川　光昭　城戸　滝枝　河野　公一

寄付金報告・研究助成金等

■創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

〈寄付金申込者〉

平成20年４月１日から７月11日までの間の寄付金入金件数は、13件、金額は5,100,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

（順不同・敬称略）

楢原　敬郎　　奥村　正治　　平井　　博　　宇野　博志　　大隈　義彦　　御幡　益司　　高木　時敬
森田健規知　　林　　泰三　　佐野　浩一
匿名３件

研究助成金等について

■平成20年度腎疾患研究助成［財団法人大阪腎臓バンク］

研　究　課　題　名	所属名・職名・氏名	助成金額
移植腎拒絶反応の制御：移植抗原を識別する受容体アンタゴニストの開発	生理学・講師(准)・山路　純子	50万円
CD28スーパーアゴニスト投与によって誘導された免疫制御細胞による免疫寛容導入、および、超音波遺伝子導入法を用いたメトロン遺伝子ゲノム内導入による“移植腎永久生着”の試み	泌尿器科学・准教授・東　治人	50万円

■平成20年度「シーズ発掘試験」Ａ（発掘型）［独立行政法人科学技術振興機構］

研　究　課　題　名	所属名・職名・氏名	試験研究費
細菌自身のリボソーム不活性化を利用した耐性菌出現低確率抗生剤の開発	物理学・講師・吉田　秀司	200万円
可溶性癌特異抗原及び癌患者血清中自己抗体の解析による新規膵臓癌診断マーカーの開発	臨床検査医学・准教授・中西　豊文	200万円
呼気中へのアンモニア排泄活性化による高アンモニア脳症の予防確認試験	生理学・准教授・中張　隆司	200万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）した公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。
研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

ハワイ大学春期短期研修について

中山国際医学医療交流センター長　**河野　公一**

本学では国際交流推進の一環としてハワイ大学医学部との間で交流協定を締結し、学生、教員の相互研修を積極的に行ってきましたが、昨年度に引き続き今年も３月20日から３月28日まで、本学４年生（現５年生）の小寺ひとみさん、金万淳一君、橋本忠幸君３名をハワイ大学でのPBLワークショップに派遣しました。

以下に学生諸君のハワイ滞在報告を紹介します。

ハワイ大学ワークショップを終えて

小寺　ひとみ

ハワイ大学医学部の校舎は海沿いの自然に囲まれた美しい場所にあり、先生方、御世話をしてくださった方々は心のこもった対応で迎えて下さいました。

ワークショップはProblem-Based Learning（PBL）、Clinical Reasoning Exercise（CRE）、模擬患者さん、ガンの告知やプレゼンテーションの授業から成り、患者さんの立場に立って、言葉を選び、話し方や態度で患者さんの心に近づいていくという、非言語的コミュニケーションをとても大切にされていました。

米国教育の素晴しいところは、臨床力が重視されているため１回生から講義と平行してPBL、CRE、模擬患者さんの授業が行われる点です。また、一度大学を卒業してから医学部に入るため、医師になるという強い意志、確たる目標を持った方が多いと感じました。

今回の参加者は事前勉強会で医学英語をしっかり勉強されて来ており、英語での活発で質の高い議論ができたと思います。帰国後、国際交流部の仲間と行っている英語のPBLにハワイ方式を取り入れ、教授の方々やチューターの先生方の前で実演をする機会をいただきました。近年、国際交流部は河野教授や中山国際医学医療交流センターの皆様のお力添えにより、活発に世界各国の医学部と交流しており、私もIFMSA（医学生交換留学団体）の本校代表者として加盟に向けて動いています。私も何度か医学留学に参加してきましたが、行く国々で常識を覆されるような新鮮な発見が多々ありました。限りある学生生活の中、多くの方に世界の医療を見て、同じ感動を味わっていただけたらと思います。大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

ハワイ大学ワークショップに参加して

金万　淳一

僕たちは３月20日から28日までの間、ハワイ大学医学部（John A . Burns School of Medicine）主催のLearning Clinical Reasoning Workshopに参加させて頂きました。このワークショップのメインテーマは「臨床推論（Clinical Reasoning）の方法を理解し、それを実際に練習して身に付ける」ということでした。具体的には、PBL（Problem-Based Learning ）、CRE（Clinical Reasoning Exercise）、Sim Pats（Simulated Patients）の３つのプログラムを中心に学習しましたが、これらは相互に関連したものであり、臨床推論のスキルを非常に効率よく磨くことのできる仕組みでした。

僕がこのワークショップを通じて感じたことは、日本および本学の医学教育との大きな違いです。米国の医学教育には「実際の医師と同じように考える」という姿勢が一つの核としてありました。それゆえPBLなどにおいても、皆が非常に能動的に仮説を挙げ、また議論も活発なものになりました。チューターの先生にも熱意があり、生徒の学習意欲を引き出す姿勢に感動しました。本学のPBLでこれを実現

するには、教育カリキュラムの抜本的な改革をする以外にないというのが正直な気持ちです。僕も非常に悔しさを感じたので、何らかの形で本学の教育改革に尽力したいです。

またハワイでは勉強だけでなく、観光も大いに楽しみました。オアフ島の全域を巡ったあの日々は最高の思い出です。ハワイ大の学生とも交流を深めることができ、同じ医学生として新たに刺激をもらいました。そして何よりも、他大学から参加された学生との深い絆が生まれたことが一番の思い出です。彼らと笑い合い、助け合い、夢を語り合った日々は忘れることができません。将来医師として彼らと再会できる日まで、この貴重な経験を胸に自身を成長させていきたいと思います。

最後に、このような人生の財産となる機会を与えてくれた、河野教授、大槻教授、米田教授、中山センターの今尾さん、PA会の方々、ハワイ大のMargitさん、Raymondさん、Richard T.Kasuya先生、およびお世話になった先生方と学生達に深く感謝の意を申し上げます。そして留学を快く後押ししてくれた両親に対して心から感謝したいです。

ハワイ大学ワークショップに参加して

橋本　忠幸

この度ハワイ大学医学部主催、Clinical Reasoning Workshopに参加させて頂きました。私は以前からアメリカの医学部に非常に興味があり、機会があれば是非ともアメリカの医学部の授業を受けてみたいと思っていました。今回ハワイ大学の担当の先生であるDr. Richard T. Kasuyaはハワイ大学医学教育部門の部長であり、実際にハワイ大学の学生の教育も担当されていました。先生は「学生にとって常に興味深いと思わせるような授業を提供したい」とおっしゃっておられました。事実、私達が受けた授業は全て興味深いものでした。ハワイ大学をはじめとして、アメリカの医学教育の素晴らしさはこの点にあると思いました。

PBLに焦点を置くと、細かな事を除けばおおよそ我々の大学で行われているものと則してはいましたが、一番の違いはチューターの介入の上手さにあると思いました。先生に伺うと、医学教育に熱心な先生は非常に多く、チューターは自主的に参加を申し込むそうです。更にそこから厳選されるというから驚きです。その上で十分なトレーニングを積み、学生のチューターとなります。しかし、それでもチューターの良し悪しが有り、ハワイ大学でも専らそれが問題だとおっしゃっていました。

全体を通して、この勉強会は非常に価値のあるものだと思います。得られるものは非常に多かったです。全国から集まってくる医学生との交流も非常に有意義なものでした。後輩の皆さんには是非とも同じ経験をして頂きたいと切に願います。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂くために、尽力していただいた河野教授、今尾さんを初め、中山国際医学医療交流センターの皆様、関係各位の皆様、また援助していただいたＰＡ会の皆様にこの場を借りて、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

最前列右から2人目金万さん、右から4人目小寺さん
3列目左から3人目橋本さん

最前列1番左橋本さん、2列目左から2人目金万さん

▌秀傳記念醫院（台湾）との交流協定調印について

中山国際医学医療交流センター長　**河野　公一**

平成20年４月14日、かねてより本学の一般・消化器外科学 谷川教授（センター運営委員）が外科治療分野で長年指導され相互交流が年々活発になっている、秀傳記念醫院の黄明和病院長（秀傳記念体系理事長）、陳雪芹購買部長（病院長夫人）、呉鴻昇副病院長および宋大琇、張菀真両秘書が本学を訪問され交流協定の調印式が行われました。式には植木学長、大槻、谷川、佐野、島原、黒岩各教授（センター運営委員）をはじめ関係者が出席されました。

左より河野センター長、植木学長、秀傳記念醫院　黄病院長、呉副病院長

秀傳記念醫院は台北をはじめ台湾の各都市に地域中核病院を展開し、医師の生涯教育にも力を注いでいる名門病院です。

協定書には教員や研究者の相互交流についての包括的な合意事項が盛り込まれており、5年ごとに見直される内容となっています。今後はこの協定書に基づき教職員、研究者の交流が活発になることが期待されます。

台湾語による協定書

日本語による協定書

▌シンガポール国立大学学生の本学短期臨床実習参加について

中山国際医学医療交流センター長　**河野　公一**

本学では国際交流推進の一環として海外医学生の大学附属病院などでの短期研修を受け入れてきましたが、平成20年５月７日より５月30日までシンガポール国立大学医学部（Yong Loo Lin School of Medicine, National Univ. of Singapore）の女子学生２名（Lee Hwee Chyenさん、Jesmine Lee Mei Geneさん）が研修を行いました。シンガポールは英国式の医学教育を取り入れており、医学部は５年制となっています。彼女たちは4学年を終了したばかりで、この時期に行われる海外での選択臨床実習先として本学を希望し、許可されました。本学では総合内科（北浦教授）、整形外科（木下教授）、一

般・消化器外科（谷川教授）や本学連携病院である北摂総合病院（木野病院長）などで研修を受けました。また研修期間中は5回生を中心に本学国際交流部の学生とも課外活動など様々な分野で交流が行われました。

彼女達に対する本学教員の評価は大変良く、研修を企画立案したセンターにとっても有意義な結果でした。誌面をお借りして本実習中に指導いただいた諸先生に感謝申し上げます。

最後列Ms. Jesmine Lee Mei Gene
前列左よりリハビリテーション科大野技師長、村尾医長、花房病院長、Ms. Lee Hwee Chyen、河野センター長

＜Ms. Lee Hwee Chyenより＞

"Konnichiwa minna-san!

Firstly I would like to thank everyone at Osaka Medical College and Hokusetsu General Hospital for organizing such an excellent elective program for me. This program has indeed been a tremendously enjoyable and memorable experience.

During the 4 weeks in OMC, I gained much insight into the scope of medicine, healthcare and education in Japan. I did weekly clinical rotations in Cardiology, Orthopaedic Surgery and Hokusetsu General Hospital.

I would like to thank the students whom I attended classes with for their help and assistance due to the occasional language barrier, as well as the doctors, tutors, nurses and other hospital staff who kindly guided me along these rotations. In particular, I would like to thank the various tutors who taught me so much during my clinical rotation in their respective departments, namely Dr Terasaki of the Department of Cardiology and Professor Kinoshita, Dr Nakajima, Dr Fujiwara, Dr Eshiro and Dr Mihata of the Department of Orthopaedic Surgery.

I attended many educational tutorials, lectures and ward rounds during my stint in Cardiology. One of the interesting things about Cardiology posting in OMC is that the students are taught the cardiac physical examination using a cardiac patient simulator known fondly to all as "ICHIRO". I am proud to say that not only was I allowed to try out this interesting invention during my rotation, I also had the privilege of meeting the creator himself, Dr Takashina,at the Japanese Educational Clinical Cardiology Society (JECCS). I also had the privilege of visiting Hokusetsu General Hospital for a week, during which I was given the opportunity to watch various operations and procedures.

Other equally memorable experiences I had were in the department of Orthopaedic Surgery. I found clinic sessions and operating theatre sessions very useful. Professor Kinoshita and Dr Nakajima were kind to let me scrub up in their operating theatre sessions, which made learning even more interesting and interactive. During my clinic sessions with Dr Fujiwara, I was also exposed to a wide range of cases in Orthopaedic Pediatric Surgery, which proved to be yet another valuable learning experience.

Moreover, everyone in OMC were such excellent hosts. I would henceforth like to thank the Nakayama International Center, as well as the medical students for their hospitality and kindness. I have made so many friends in such a short time, and I do hope we will continue to keep in touch. The time we spent together may have been shortlived, but I really enjoyed myself tremendously with everyone. To be honest, I had become so attached to everyone that during the farewell party, I was almost on the verge of tears at the thought of leaving!

I truly enjoyed my time in Osaka Medical College with the many things I have seen and learnt, and the new friends I have made. Although it was all of 4 weeks, I dare say that it was the experience of a life time, one in which I gained knowledge, underwent a cultural exchange, and forged new friendships simultaneously.

I do hope that many more will be able to have such a memorable experience, and Minna-san, thank you once again for everything you have done for me! "

＜Ms. Jesmine Lee Mei Geneより＞

Yes I would like to say Thank you to Nakayama Center for their excellent program which has allowed cultural and educational exchange across countries. thank you to all the Staff members and students of OMC for their warmth and hospitality, it has been a very enjoyable and enriching experience, and one that will certainly stay with me for a very long time to come!!

▌清華大学学生の本学短期研修参加について

中山国際医学医療交流センター運営委員　**大槻　勝紀**

清華大学から平成20年３月１日～４月４日、解剖学教室にMs. Du LehuiとMs. Zhang Yingyingが研究のために来訪しました。以下Ms. Du Lehui の文章です。

左よりMs. Zhang Yingying、大槻教授、Ms. Du Lehui

The length of period for my study in Osaka Medical College is very short, but the experience is quite valuable to me. Although the results of experiments did not satisfy me, I have learned a lot and got many important experiences in experimental process. In this period, all the staff in the Department of Anatomy provided many helps and guidance to me, especially Asso. Prof. Shibata and Teacher Li. I wish to extend my sincere thanks for all their kindness and care. At the same time, I appreciate the president of the Department of Anatomy Prof Otsuki for such an excellent opportunity he provided for me. In a word, I appreciate every one of the Department of Anatomy deeply for all the things they have done for me.

▌ブリストル大学大学院生の本学短期研修参加について

生理学教室　講師　**相馬　義郎**

（現　慶應義塾大学医学部 薬理学教室 准教授）

Zhe Xu君は、中国の精華大学卒業後、英国ブリストル大学大学院生理学科でCFTRチャネルの研究を行なっている大学院生です。約１年前に彼の指導教官であるDr. David Sheppardから、Xu君が私からイオンチャネルゲーティングのコンピュータシミュレーション技術を習いたいと希望しているとのメールを受け取りました。彼は、中国の大学入学試験で18万人中７位の成績を取っている優秀な学生で、打ち合わせための数回のメールのやり取りのあと難なくグレイトブリテン笹川財団の短期留学グラント

を獲得し、生理学教室に約一ヶ月半の間滞在しました。短期間でしたが、礼儀正しく穏和な性格のなかにもすばらしい数理的洞察力を持ったXu君のトレーニングは、私に今までにはない教えることの快感と充実感を与えてくれました。以下彼からのメッセージです。

左から生理学教室森講師、教育センター宮本講師、生理学教室窪田教授、Mr. Zhe Xu、生理学教室相馬講師（現　慶應義塾大学医学部 薬理学教室 准教授）、生理学教室南本さん

My visit to Osaka Medical College, Osaka, Japan

Zhe XU
Department of Physiology & Pharmacology,
University of Bristol, Bristol, UK

I am a PhD student with Dr. David Sheppard in the Department of Physiology & Pharmacology at the University of Bristol. Over the last 3 years, I have investigated how cystic fibrosis mutations disrupt the function of the cystic fibrosis transmembrane-conductance regulator (CFTR) chloride channel, using the excised inside-out configuration of the patch-clamp technique. Much of my work was focused on how revertant (second site) mutations rescue the defective gating of F508del- and G551D-CFTR, two common and severe CF-associated mutants. Before my visit to Japan, I had investigated how F508del and G551D prevented chloride transport by CFTR and how their function could be restored to these mutants by introducing additional mutations into the CFTR gene. However, I wished to obtain deeper understanding of CFTR and its malfunction in CF by applying computer modelling techniques to my work with Dr. Yoshiro Sohma at Osaka Medical College, who is an expert in computer modelling of ion channel behaviour. With this purpose, I visited Osaka between 20th February and 4th April of 2008.

There were four merits of my visit to Japan. First, I had a great opportunity to study and discuss CFTR structure and function with Dr. Sohma in the aspect of computer modelling and simulation of CFTR chloride channel function. Second, I gave Dr. Sohma help and advice with high-resolution single-channel recording and data analysis of CFTR chloride channel gating behaviour. Third, the collaboration between Dr. Sohma's group with my supervisor Dr. Sheppard's group is strengthened considerably through my visit. For example, Dr. Sheppard has been invited to visit Dr. Sohma and co-organise a symposium on CFTR at the Physiology of Anion Transport Meeting, which will be held in Japan in August, 2009. Finally, my visit has given me a unique opportunity to observe closely Japanese culture and society. I learnt about Japanese persistence, diligence, and teamwork from Dr. Sohma and his colleagues at Osaka Medical College. In conclusion, my visit to Japan was very fruitful and will greatly help the development of my scientific career.

At last, I would like to thank the Nakayama International Center at Osaka Medical College for this precious opportunity, thank Professor Kono, Professor Kubota and Dr. Sohma for their hospitality and thank the Great Britain Sasakawa Foundation for its generous support.

平成20年度　医学会春季学術講演会

日　時：　平成20年 6 月11日（水）13時30分～16時30分
場　所：　臨床第 1 講堂

［特別講演］
『カテコラミン強心作用の機構とその破綻による病態』
大阪医科大学　薬理学教室
教授　朝日　通雄

［特別講演］
『泌尿器系腫瘍の画像診断』
大阪医科大学　放射線医学教室
教授　鳴海　善文

［研究奨励賞受賞講演］
『ATPによって惹起された網膜微小血管周皮細胞の容積変化：周皮細胞による網膜血流の調整』
大阪医科大学　眼科学教室
山上　高生

［研究奨励賞受賞講演］
『卵巣癌細胞におけるSelective estrogen receptor modulator（SERM）の組織特異性』
大阪医科大学　産婦人科学教室
佐々木　浩

学長室にて：
前列左から
　鳴海教授、植木学長、
　朝日教授
後列左から
　古谷教授、林教授、
　上田教授

平成20年度　第Ⅰ回　学位記授与式

日　　時：　平成20年７月25日（金）　15：00～
場　　所：　別館講堂（階段教室）および　大学院多目的講義室
大学院医学研究科修了者（甲）…７名
論文提出者（乙）……４名

番　　号	氏　　名	論　文　題　名
甲第807号	新井　康泰	Epidemiological Evidence of Multidrug-Resistant *Shigella sonnei* Colonization in India by Sentinel Surveillance in a Japanese Quarantine Station （日本の検疫所における遠隔疫学調査による多剤耐性赤痢菌株のインド国内における定着の証明）
甲第808号	梶浦　　貢	Variant autonomic regulation during active standing in Swedish and Japanese junior high school children （スエーデン人と日本人の中学生が能動起立した際の自律神経調節機能の比較検討）
甲第809号	金沢　徹文	The Utility of SELENBP1 Gene Expression as a Biomarker for Major Psychotic Disorders: Replication in Schizophrenia and Extension to Bipolar Disorder With Psychosis （SELENBP1遺伝子の精神病バイオマーカーとしての有用性: 統合失調症での再現と精神病症状を伴う躁うつ病への拡大）
甲第810号	古武　彌嗣	Substrate Recognition Mechanism of the Peptidase Domain of the Quorum－Sensing－Signal-Producing ABC Transporter ComA from *Streptococcus* （ストレプトコッカスの細胞間情報伝達システムにおけるシグナル分子産生酵素の基質認識メカニズムの解析）

番　　号	氏　　名	論　文　題　名
甲第811号	佐々木良雄	Stenting for superficial femoral artery atherosclerotic occlusion: long-term follow-up results （浅大腿動脈の粥状硬化性閉塞に対するステント留置術：長期遠隔成績）
甲第812号	新保有佳里	Effect of Time Between Monochloroacetate Exposure and Glucose Infusion in "Golden Hour" （モノクロロ酢酸曝露後超早期におけるグルコース静注治療が生存率に与える影響について）
甲第813号	三木　義仁	Vascular endothelial growth factor gene-transferred bone marrow stromal cells engineered with a herpes simplex virus type 1 vector can improve neurological deficits and reduce infarction volume in rat brain ischemia （単純ヘルペスウイルスベクター１により血管内皮増殖因子（VEGF）の遺伝子を導入した骨髄間質細胞はラット脳梗塞巣の体積を減じ、神経症状を改善する）

番　　号	氏　　名	論　文　題　名
乙第1058号	和田　友香	*CXorf6* is a causative gene for hypospadias （*CXorf6*は尿道下裂の責任遺伝子である）
乙第1059号	藤阪　保仁	Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of Weekly Epoetin Beta in Lung Cancer Patients （肺癌患者に対するエポエチンベータ週1回投与の薬物動態及び薬効の検討）
乙第1060号	覚野　芳光	Establishment and characterization of a cell line (OMC-9) originating from a human endometrial stromal sarcoma （ヒト子宮内膜間質肉腫由来培養細胞株（OMC-9）の樹立とその性状）
乙第1061号	籔本　恭明	Expression of GABAergic system in pulmonary neuroendocrine cells and airway epithelial cells in GAD67-GFP knock-in mice （GAD67-GFP ノックインマウスの肺神経内分泌細胞および気道上皮細胞におけるGABAシステムの発現）

新入生歓迎会「炎祭」開催

学友会主催の新入生歓迎会「炎祭」が、6月14日(土)に開催されました。午前中は、さわらぎキャンパス体育館においてフットサル球技大会が行われ、午後5時からは本部キャンパス学生文化部室前において各クラブが模擬店を出店し、植木学長、大槻教育機構長、学友会代表による鏡割り、学生による様々なイベントが行われ、午後8時の終了まで多くの学生が集い、青春を謳歌しました。

ＰＡ会総会および教育懇談会開催

平成20年度ＰＡ会総会が４月19日(土)午後２時から本学新講義実習棟において、植木学長はじめ國澤理事長、大槻教育機構長、ＰＡ会会員63名の参加を頂き開催されました。

当日の議事は以下のとおりです。

１）挨拶（ＰＡ会丸川会長、植木学長、國澤理事長）
２）平成19年度ＰＡ会事業報告及び決算報告、会計監査について
３）役員の選出について
４）平成20年度の活動方針（案）について

挨拶の中で、ＰＡ会丸川会長からＰＡ会設立の主旨と活動状況について、植木学長から国家試験合格率と今後の対策、PBL教育の今後の取り組みについて、國澤理事長からは外部から見た本学の評価についての説明があり、今後本学をトップの大学にしていきたいとの決意が述べられました。その後、ＰＡ会丸川会長のもと議事が進行されました。

総会に引き続き、ＰＡ会主催の教育懇談会が開催され、大槻教育機構長による大学の近況報告の後、教育機構教員、学年担当教員による個別教育懇談会が行われました。

生前献体者文部科学大臣感謝状伝達式・ご遺骨返納法要

生前献体者に対する文部科学大臣からの感謝状伝達式が５月14日(水)、午後１時から第２会議室において挙行されました。また、これに引き続き、ご遺骨返納法要が午後２時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、植木学長、大槻解剖学教授、解剖学教室教職員および学部学生の参列のもとに厳かに執り行われました。式典は光松寺霊群住職の読経に始まり、33位の御霊位と献体に深いご理解を頂いたご遺族に対して、大槻教授、学生代表が祭文を奉読し感謝の意を表しました。読経の中、代表焼香に続いて参列者全員が焼香を行った後、植木学長から感謝状を贈呈し、学生からご遺族の手にご遺骨をお返ししました。

さつき会（献体登録者）総会開催

生前委託者（献体登録者）の総会（さつき会）が６月12日(木)午後１時から高槻現代劇場文化ホール３Ｆレセプションルームにおいて、会員約170名をお招きし、植木学長、大槻教授をはじめ解剖学教室教員出席のもと開催されました。

平成19年度成願者の御霊への黙祷を捧げた後、植木学長、岡村会長のご挨拶、平成19年度篤志献体活動報告、霊群住職の講話、臨床検査医学教室・田窪教授の「ストレスの評価について」と題した特別講演が行われ、午後２時30分に閉会いたしました。

平成20年度災害対策特別講演会開催

講演中の定光講師

平成20年７月７日（月）午後５時から６時30分まで、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター救命救急センター診療部長の定光大海先生をお招きし、「これからの災害医療について（災害拠点病院としての役割と災害医療）」の演題でご講演いただきました。定光先生はNational DMATの一員としてご活躍になっておられ、わが国における災害医療に関する専門家のお一人であり、平成20年４月から本学救急医学教室の非常勤講師を兼ねていただいています。

本学全職員を対象にした災害に関する講演会は初めてということもあり、参加者数の予測がつかなかったのですが、本学職員以外にも、大阪府三島救命救急センターや近隣の消防機関からの来聴者を得ることができ、臨床第１講堂には350名を越える参加者で溢れました。

昨今、頻発する自然・人為災害の事例を挙げながら、災害医療の基本である「最大多数の被災傷病者に、限りある医療資源を最大に提供する」ための総論を中心に、災害の特殊な用語等わかりやすく解説されるとともに、平時からの心構え、イメージトレーニングの大切さを強調され、有意義な講演会となりました。

参加者のなかには、各論としてトリアージ演習、発災時の具体的な院内対策について、第２弾、第３弾の講演会を期待される方が多く見受けられました。

（文責　救急医療部　教授　森田　大）

ナイチンゲール生誕祭

平成20年５月７日

第18回目となるナイチンゲール生誕祭は、生誕祭委員を中心に１年をかけて企画運営し、この日を迎えました。附属病院から看護部長・部長代理・副部長・臨床指導者の方々も参加していただきました。全員でのナイチンゲール像への献花、誓詞斉唱、聖灯拝受のあと、今年の先人の紹介では、日本にナイチンゲールの足跡から今日の看護のあり方を明らかにした「ヴァージニア・ヘンダーソン女史」がとりあげられ、興味深い発表となりました。学年ごとの代表者が看護に対する想いを発表し心新たにしました。その後、１・２・３年生の縦割りグループ編成で、附属病院に入院中の患者さんを訪問させていただきました。１年生にとってはキャップこそないものの、本校の学生として患者さんのベッドサイドを訪れる初めての経験となりました。「いいナースになってくださいね」と励ましの声をかけていただき感激している人、「緊張して顔が引きつってしまいました」と残念そうにしている人様々でした。この日の体験を基にして、自己の看護を成長させる貴重な機会となりました。

第3回白友祭

平成20年５月10日

過去２回の経験を経て、３回目の白友祭を、実行委員会は１年をかけて企画し、今年も５月12日のナイチンゲールの生誕記念日の「看護週間」に行いました。今年のテーマは「看護で深めよう地域との絆－今日の出会いを大切に－」でした。昨年と同様に事前に高槻ケーブルテレビの「街かどホットライン」で取り上げていただき、実行委員長と昨年度の実行委員長で本年度の副委員長がスタジオで生中継でのPRをさせていただきました。その成果があってか皆様のご理解をいただき、あいにくの雨になってしまいましたが、それでも260名程の方々にご参加いただき、盛況のうちに終えることができ、地域の中の看護学校としての手ごたえを感じることが出来ました。ご参加くださった方々の中には、昨年たまたま学校にポスターが貼ってあるのをお見かけくださり、昨年に引き続いて今年も枚方からご参加下さったご一家もありました。一昨日見学してくださったシンガポール国立大学の医学生さんと大阪医科大学の医学生の方々も積極的に参加していただき、楽しんでくださったようです。催し物としては、昨年好評をいただいた和服乙女による抹茶と和菓子を始めとする模擬店に、今年は新しく白玉団子やフルーツポンチもメニューに加えました。その他バザーやちびっこ工作・ゲームコーナーでは、

近隣の小学校の元気な学童保育の子供さんたちにも参加していただき、楽しんでもらうことができました。健康チェック・健康相談・健康指導コーナーは、「メタボリックシンドローム」の注目を受けて今年も大盛況でした。その他、車椅子の乗車や妊婦、高齢者、育児体験などの体験コーナー、介護相談コーナーも設けました。講堂では、学生有志によるダンス・合唱・吹奏楽など、練習に練習を重ねた集大成を、表現しました。今年は男子学生５人の制服乙女と秋葉系のダンスが目玉でした！　最後の特別講演は「手話落語を楽しもう」をテーマに　元高槻市の職員で、話術・手話・福祉等々、豊富な体験をお持ちの「交遊亭楽笑さん」に手演していただきました。名前の通りに楽しく陽気な楽笑さん！最後は「千の風にのって」を全員で手話合唱して、手話を通しての笑いにこころの栄養をいっぱいいただきました。当日は高槻ケーブルテレビ「街かどほっとらいん・週間街かどほっとらいん」の取材を受け、５月12日・17日・18日に放映もしていただきました。今後は頂戴致しましたアンケートの結果を参考に、次年度に向けて更によいものにしていきたいと考えています。そして地域に根ざした看護専門学校を目指し更に努力して参りたいと存じますので、これからもご指導ご鞭撻くださいますようにお願い申し上げます。 ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。来年もお待ちしております。

■主な行事日程（9月～11月）

９月１日（月）　看護専門学校授業開始
３日（水）　教授会・大学院医学研究科委員会
診療科長会
５日（金）　看護専門学校交流会
９日（火）　理事会
10日（水）　大講座主任教授会
17日（水）　教授会・大学院医学研究科委員会
20日（土）　市民公開講座
24日（水）　病院運営会議
28日（日）　医学部医学科第１回入試説明会
10月１日（水）　教授会・大学院医学研究科委員会
診療科長会
８日（水）　大講座主任教授会
14日（火）　理事会
15日（水）　教授会・大学院医学研究科委員会
17日（金）　看護専門学校戴帽式
18日（土）　解剖慰霊祭
22日（水）　病院運営会議
24日（金）　名誉・功労教授懇親会（於：ホテル日航茨木大阪）
11月３日（月･祝）　医学部医学科第２回入試説明会
５日（水）　教授会・大学院医学研究科委員会
診療科長会
８日（土）　院内コンサート
11日（火）　理事会
12日（水）　医学会秋季学術講演会
大講座主任教授会
14日（金）　看護専門学校入学試験（推薦）
15日（土）　市民公開講座
19日（水）　教授会・大学院医学研究科委員会
26日（水）　病院運営会議

平成20年度　市民公開講座

■第 2 回

平成20年 5 月17日（土）14時～　臨床第 1 講堂

『抗がん剤治療の進歩を知る―胃がんと大腸がん―』
講師：化学療法センター長　准教授　瀧内　比呂也

『大腸内視鏡検査を受けるときに使うお薬について』
講師：附属病院薬剤部　後藤　愛実

❀看護部のご協力により『がんに関する看護相談会』を開催致しました。

■第 3 回

平成20年 6 月21日（土）14時～　臨床第 1 講堂

『たかが頭痛、されど頭痛～機能性頭痛を中心に～』
講師：内科学Ⅰ　講師　木村　文治

『頭痛薬との上手なつきあい方』
講師：附属病院薬剤部　吉川　依里

❀『看護相談会』を開催致しました。

平成20年度　市民公開講座開催予定

回　数	開催日	演　題	講　師	演　題	薬剤師
第 4 回	9 月20日(土)	小児の腹痛	小児科学 講師　余田　　篤	腹痛を予防するための工夫―上手な消毒剤の使い方―	薬剤部 山口真里子
第 5 回	11月15日(土)	皮膚のかゆみの診断と治療	皮膚科学 准教授　森脇　真一	皮膚外用剤(軟膏とクリーム)の違いについて	薬剤部 益森　啓子
第 6 回	12月20日(土)	在宅における栄養管理―低栄養による肺炎、床ずれ予防のために―	NST委員会 助教　山田　佳孝	栄養管理に使用されるお薬について	薬剤部 西村　果純
第 7 回	平成21年 1 月17日(土)	ひざの痛みの話	整形外科学 准教授　中島　幹雄	痛み止めを長く上手に飲んで頂くために	薬剤部 梅本　裕子

❀各回にて『看護相談会』を開催致します。

■市民公開講座　看護相談コーナーの開設について

看護師長・がん看護専門看護師　**黒岩　真紀**

看護部では、今年度より市民の健康づくりへの支援、患者サービスの一環として市民公開講座に参加協力させていただくことになりました。当看護部には、現在がん看護専門看護師１名、認定看護師（救急看護、緩和ケア、皮膚・排泄ケア、手術看護、新生児集中ケア）５名がその資格を取得しており、医療の質の向上や広く社会への貢献を期待されています。

この度、その専門性を活かし第２回市民公開講座に参加させていただき、試験的に看護相談コーナーを開設いたしました。第２回市民公開講座では、医師、薬剤師による「抗がん剤治療の進歩を知る」「外来で安全に化学療法を受けて頂くために」というテーマで講演が行われ、参加されていた市民の方々はとても熱心で活発に質問をされていました。私は、がん看護専門看護師として看護相談コーナーでがんの相談をお受けしました。最初は、相談者の方も「どこに相談すればよいのかわからなくって…」と戸惑われている様子でしたが、最後には、「今日は話を聞いてもらって気持が楽になりました。」と笑顔で帰られました。このようにがんの患者様やそのご家族は、多くの不安や悩みを抱えていらっしゃいます。私達は、そういったがんの患者やそのご家族に対してがん看護専門看護師として少しでも役に立てるよう日々努力していきたいと思います。

看護部では、がんだけでなく病気を持ちながら地域で生活されている皆様、健康に関心のある市民の皆様のライフサポーターとして市民公開講座を通し地域に貢献したいと考えております。今後とも関係者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平成20年度　高槻市大学交流センター事業　市民講座

［第１回］

平成20年７月23日（水）15：30～17：00
高槻市総合市民交流センター　７階　第６会議室
『肝臓の話』
講師：病理学　教授　芝山　雄老

［第２回］

平成20年７月30日（水）15：30～17：00
高槻市総合市民交流センター　７階　第６会議室
『病気の形態学：がんの形からわかること』
講師：病理学　准教授　岡田　仁克

［第３回］

平成20年８月６日（水）15：30～17：00
高槻市総合市民交流センター　７階　第６会議室
『オタマジャクシの尻尾は何故消えるの？
　―病気と細胞増殖、細胞死について―』
講師：解剖学　教授　大槻　勝紀

感染対策室関係

■感染対策室からのお知らせ

今回は、世界各地で発生する鳥インフルエンザの流行にともなってマスコミで話題にあがる新型インフルエンザに関して説明します。

インフルエンザは流行パターンから2つに分けられます。毎年流行する季節性のインフルエンザと、十年から数十年の周期で発生する新型インフルエンザです。新型の場合、最後に発生した1968年の香港風邪以来、新型インフルエンザがいつ大流行をしてもおかしくないと言われてきました。近年、東南アジアに端を発した鳥インフルエンザ（H5N1）は、全世界で350人をこえる感染者と200人以上の死亡者を出しています。このウイルスがヒトからヒトへと感染するようになった途端、爆発的に流行し世界中に感染が拡大することは容易に想像できます。航空機により、ひとたび日本に上陸すると電車などの公共交通機関を通じてあっという間に感染が広がるでしょう。パンデミック（感染爆発）の流行を完全に抑えることは不可能ですが、流行規模を小さくすることは可能だといわれています。そこで対策のポイントは、流行のピークをどれだけ低くする事ができるかどうかです。

当院では院内感染対策委員会の下部組織としてSARSおよび新型インフルエンザ対策小委員会を設置し、パンデミック（感染爆発）発生時の初期対応および職員をどう感染から守るかという点について定期的に議論して準備をすすめています。また、高槻市保健所に設置されている感染症発生動向調査委員会および感染症審査協議会を通じて、地域での防疫体制について行政および近隣の医療機関や医師会と連絡をとりながら対策をすすめています。新型インフルエンザは、いつ、どのようなウイルスが、どの程度の規模で流行が発生するのか全く予測がつきません。厚生労働省のガイドラインでは、1918年に発生した世界で最大規模のパンデミックであるスペイン風邪を想定し作成されていますが、それ以上の規模であるかもしれないし、はるかに小さな規模であるかもしれません。しかし、重要なことは正しい知識をもって可能な限り準備を怠らないことです。今後とも新型インフルエンザ対策小委員会に対して皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

感染対策室　中川　俊正

■感染対策講演会開催

日　時：平成20年７月18日（金）17時～
場　所：臨床第１講堂（ライブ）
　　臨床第２講堂（中継）
演　題：『最新の院内感染対策』
演　者：矢野邦夫先生
　　県西部浜松医療センター
　　感染症科長兼衛生管理室長

矢野先生の講演は、CDCのガイドラインの説明から始まりました。先生が感染対策を担当し始めた時、粘着マットの是非について人により全く意見が異なることに驚き、CDC（米国疾病管理センター）ガイドラインに範を求めたそうです。その後、エビデンスにもとづきICUや手術室のスリッパや粘着マット

を廃止し、以来毎年新しい試みを行っているとの説明がありました。浜松医療センターは全国にさきがけて手術室やICUのスリッパを廃止した施設として非常に有名であり、本学の医師が浜松医療センターに見学に行き感激して戻ってきたエピソードを思い出します。講演は、環境表面の消毒や器材の滅菌、洗浄の話、昨年追加された咳エチケットの話、ノロウイルスやワクチンの話など多彩な内容を分かりやすく説明されました。

矢野先生は、米国のCDCのガイドラインを日本の病院に持ち込むことができるかという視点で感染対策を実践されているそうです。話の中には、極端すぎるのではないかという点もありましたが、エビデンスが認められなければ元に戻すことも含めて感染対策を実験的に行っているとの内容でした。参加された約500名の職員の方には矢野先生の講演を十分に楽しんで頂けたのではないかと考えています。参加できなかった方は是非DVDで内容を確認してください。今後も矢野先生の動向には目を離すことができないようです。

■「平成20年度国公私立大学附属病院リスクマネージャー研修」に参加して

「平成20年度国公私立大学附属病院リスクマネージャー研修」が文部科学省主催で、平成20年５月14日（水）から同５月16日（金）までの三日間、国立大学法人大阪大学コンベンションセンターで開催されました。参加人数は全国108大学病院から医師・薬剤師・看護師・事務職等のリスクマネージャー267名を数えました。当然ながらその他にも文部科学省、近畿厚生局からの出席もありました。私は５月15日（木）13時より「BEST PRACTICEの発表」のセッションで「本院における患者相談（苦情）窓口について」と言う演題で30分間話をさせていただきました。

本院に「患者相談窓口」が設置されたのは平成15年４月であり、当初はMSWが担当をし、相談の中心は「医療福祉相談」「退院調整・転院調整」そして「苦情に関する事」でした。しかし、私が平成16年12月に配属されてからは、MSWが受ける相談業務と切り離して、「苦情に関する事」と「訴訟･紛争業務」を担当しています。話の内容は「本院の患者相談（苦情）窓口の位置付け」、「患者相談（苦情）窓口の現状」、「事例紹介（３例）」、「今後の患者相談（苦情）窓口とは」としました。私が最も強調したかったのは、今後の相談窓口のあり方と言うことで４点掲げました。先ず第一に、「専従者の必要性」次に「在職期間の限定」、「メディエーション能力の必要性」そして「専従者への精神的ケアの必要性」です。折しも平成20年３月20日に「日本医療メディエーター協会」が設立されました。医療メディエーターは必要な人材であり、その手法であるメディエーションを導入し拡げていく必要性を感じています。この協会は、今後医療現場の疲弊を防ぐために重要な役割を担うと考えられ、本院も出来る限りこういった活動に参画し、職員の満足度を上げる事によって、結果的に患者満足度の向上に繋がると考えます。

病院医療相談部　角江　司

主要会議報告

■主要会議とその主な議題（平成20年５月～７月）

［理事会］

（平成20年５月13日）
―審議事項―
１．学校法人大阪医科大学予算規程の制定について
―報告事項―
１．日本私立医科大学協会理事会報告
２．その他の報告
（１）広報・入試プロジェクト委員会報告
（２）共同学部設置協議会報告
（３）会計検査院実地検査の状況について
（４）学事関係報告
（５）病院関係報告
（６）看護専門学校関係報告
（７）その他

（平成20年５月31日）
―審議事項―
１．平成19年度決算案承認について
２．平成19年度事業報告承認について
３．評議員の選任について
―報告事項―
１．日本私立医科大学協会報告
２．共同学部について
３．資金運用状況報告

（平成20年６月10日）
―審議事項―
１．大阪医科大学附属看護専門学校学則の一部改正について
２．大阪医科大学大学院医学研究科における大綱改編について
―報告事項―
１．私立大学連盟報告について
２．その他
（１）私立事業団経営判断指標に基づく本学の経営状態について
（２）学事関係報告
（３）病院関係報告
（４）看護専門学校関係報告

（平成20年７月８日）
―審議事項―
１．大阪医科大学大学院学則の一部改正について
２．大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程の一部改正について
３．サテライト事業計画について
―報告事項―
１．日本私立医科大学協会理事会報告について
２．その他
（１）学事報告
（２）病院関係報告
（３）看護専門学校関係報告

［評議員会］

（平成20年５月31日）
―審議事項―
１．議長の選出について
２．理事の選任について
―報告事項―
１．平成19年度決算報告について
２．平成19年度事業報告について
３．資金運用状況報告
４．寄付金実績報告
５．その他
（１）学事報告
（２）病院長報告
（３）看護専門学校長報告
６．共同学部の設置について

［大講座主任教授会］

（平成20年５月14日）
―審議事項―
１．新しい大講座枠についての問題点について
２．国家試験成績の向上に向けた本学の教育方法の改善について
３．その他

（平成20年６月11日）
―審議事項―
１．各大講座からの報告
２．大講座主任教授会規程の改正案について
３．大講座名の変更について

（平成20年７月９日）
―審議事項―
１．各大講座からの報告
２．教室の定義と大阪医科大学医学部医学科大講座・教室規程の一部改正について

［教授会］

（平成20年５月７日）
―審議事項―
１．人事に関する件
２．病院長選考規程改正に関する委員会委員（案）について
３．大講座再編について
４．「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」（近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム）について
５．大阪医科大学図書館運営委員会規則改正（案）について
６．総合診断・治療学講座 病理学教室専門教授選考委員会公募について

7．平成20年度教育実習用機器整備の申請について
8．教員評価システム検討委員会委員（案）について
―報告事項―
1．学長報告
2．教育センター長報告
3．中山国際医学医療交流センター長報告

（平成20年５月21日）
―審議事項―
1．人事に関する件
2．総合診断・治療学講座 病理学教室専門教授選考委員会について
3．大阪医科大学「女性医療人（医師・看護師等）の子育て及びキャリア形成並びに復職支援センター（仮称）」設置に関する委員会について
4．平成20年度奨学金推薦一覧について
―報告事項―
1．理事会報告
2．学長報告
3．教育機構長報告
4．広報・入試プロジェクト委員長報告
5．中山国際医学医療交流センター長報告
6．倫理委員長報告

（平成20年６月４日）
―審議事項―
1．人事に関する件
2．大阪医科大学大学院医学研究科における大綱改編について
3．総合診断・治療学講座病理学教室の専門教授について
4．「女性医療人の子育て・キャリア形成並びに復職支援センター（仮称）」設置委員会委員（案）について
―報告事項―
1．理事会報告
2．学長報告
3．中山国際医学医療交流センター長報告
4．市民公開講座運営委員長報告

（平成20年６月18日）
―審議事項―
1．人事に関する件
2．総合診断・治療学講座病理学教室専門教授の選考について
3．大阪医科大学大講座主任教授会規程の一部改正について
4．大講座名の一部改正について
5．教室の新設・統廃合に関する将来構想委員会結果の審議
6．中山国際医学医療交流センター海外交流支援制度取扱要領の改正について
7．第２学年学生の処分について
―報告事項―
1．理事会報告
2．学長報告
3．教育機構長報告
4．広報・入試センター長報告
5．中山国際医学医療交流センター長報告
6．公開講座運営委員長報告
7．教育センター長報告
8．その他

（平成20年７月２日）
―審議事項―
1．人事に関する件
2．化学療法センター専門教授の選考について
3．放射線医学教室治療分野専門教授の選考について
4．総合診療医学科専門教授の選考について
5．大阪医科大学医学部医学科大講座・教室規程の一部改正について
6．大阪医科大学教授会規程の一部改正について
7．第２学年生の復学願い出について
8．ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査専門部会員について
―報告事項―
1．理事会報告
2．学長報告
3．教育機構長報告
4．教育センター長報告

（平成20年７月16日）
―審議事項―
1．人事に関する件
2．総合診療科専門教授の選考について
3．専門教授選考委員会委員の委嘱について
4．大阪医科大学学則の一部改正について
5．広報・入試プロジェクト委員会委員の委嘱について
6．学校法人大阪医科大学鈎奨学基金研究助成審査委員会委員の選出について
―報告事項―
1．理事会報告
2．学長報告
3．教育機構長報告
4．教育センター長報告
5．研究機構長報告
6．ホームページ委員長報告
7．倫理委員長報告
8．その他

主要会議報告

[大学院医学研究科委員会]
(平成20年５月７日)
―審議事項―
１．退学願について
２．学外研究許可願について
３．特別研究生（研究指導委託）について
４．平成20年度ティーチング・アシスタントの任用について
５．平成20年度リサーチ・アシスタントの任用について
―報告事項―
１．平成20年度第Ⅰ回学位申請に関わる日程について

(平成20年５月21日)
―審議事項―
１．平成20年度大学院生研究指導教員について
２．リハビリテーション医学および心理学教室の設置について
３．平成20年度ティーチング・アシスタント（追加上申及び上申取り下げ）について
４．平成20年度第１回学位論文審査受理可否について
―報告事項―
１．平成20年度共同利用実験施設セミナー受講結果およびアンケート集計結果について
２．高槻市私費外国人留学生奨学金について

(平成20年６月４日)
―報告事項―
１．平成20年度第Ⅰ回学位論文審査について
２．平成20年度大学院教育要項における統合講義日程の訂正について
３．平成20年度研究指導実施届出書の提出について

(平成20年６月18日)
―審議事項―
１．「大阪医科大学大学院学則」の一部改正について
―報告事項―
１．平成20年度第Ⅰ回学位記授与式について
２．日本学生支援機構に関わる平成21年度大学院第一種奨学金・第二種奨学金および第二種奨学金（海外）の予約採用候補者の推薦について

(平成20年７月２日)
―審議事項―
１．平成20年度第１回論文提出のための語学試験合否判定について
２．平成21年度以降の語学試験および入学試験における外国語科目について
３．大阪医科大学大学院ファカルティー・ディベロップメント委員会規程の改正について
４．大阪医科大学大学院給付奨学金支給規程の改正について
５．大学院委員会内規の改正および委員の委嘱について
―報告事項―
１．平成21年度大学院医学研究科医学専攻設置の届出について
２．平成21年度大学院入学試験に関わる日程について
３．平成20年度大学院整備重点化経費－研究科特別経費の公募について
４．平成20年度統合講義担当日変更について
５．修了見込み証明書の発行について
６．大阪医科大学大学院学則改正の一部修正について

(平成20年７月16日)
―審議事項―
１．平成20年度第１回学位論文審査結果に基づく可（合）否に関する件
２．平成21年度大学院医学研究科学生募集要項について
―報告事項―
１．平成20年度第１回学位記授与式について
２．平成20年度第２回学位論文審査申請締切について
３．第４回三島圏域がん・緩和医療セミナーの開催について

学報アンケート回答集計について

過日ご協力を頂きました学報についてのアンケート結果を報告致します。

ご回答頂きました総数（986件）を100%として計算しております。重複回答のため、回答総数が異なりますのでご了解下さい。

［1］職種

（1）教員	128	人	13 %
（2）看護職	552		56
（3）コメディカル	133		14
（4）事務職	123		12
（5）労務職	31		3
（6）派遣他	19		2
合計	986		100

［2］年代

（1）20代	446	人	45 %
（2）30代	250		25
（3）40代	165		17
（4）50代	101		10
（5）60代	24		3
合計	986		100

［3］性別

（1）男性	206	人	21 %
（2）女性	780		79
合計	986		100

［4］学報を読まれていますか？

（1）全て読む	90	人	9 %
（2）一部を読む	393		40
（3）目を通す程度	416		42
（4）殆ど読まない	87		9
合計	986		100

［5］どのような記事に興味がありますか？（重複回答のため、回答総数が異なります）

（1）トピックス	502	人	29 %
（2）規程・人事	624		36
（3）部署案内・報告	354		20
（4）行事日程・報告	253		15
合計	1733		100 ［重複回答］

✳　皆様からお寄せ頂きましたご意見・ご質問等を今号にてご紹介させて頂く予定でおりましたが、ページ配分の調整上、掲載が難しくなりました。誠に申し訳ございませんが、次号にて改めさせて頂きますので、ご了承下願います。なお、現状において変更した点は以下のとおりです。下記以外にも皆様のご意見をもとに、順次検討を行っております。

学報76号（前号／5月号）からの変更した内容について

✏　規程の掲載方法について
制定・改正ともに、周知の重要性が高いもののみ全文または新旧対照表を掲載。それ以外については規程名と施行日（改正日）のみを表記することとしました。

✏　人事情報について
委員会関係の委嘱・解嘱情報、海外渡航情報の掲載については、周知の重要性・緊急性が高くなく、掲載時期には古い情報になってしまうため、掲載を取り止めました。

✏　学報は第48号から、人事情報を除いてPDF化したものを掲載しています。47号以前のものについても順次掲載して行く予定です。（http://www.osaka-med.ac.jp/deps/soumu/daigakushoukai/kouhou/kouhou.htm）

✳　引き続き、ご意見等を受け付けておりますので、専用メールアドレスgakuho@art.osaka-med.ac.jpまでお寄せ下さい。

保健管理室からのお知らせ

■ 医学部学生、看護学生、大学院学生の定期健康診断を終えて

平成20年度の学生定期健康診断を下記の日程で実施しました。これまで大学院学生の健診は10月～11月に職員定期健康診断時に実施してきましたが、今年度より学校保健法に基づき春期に実施時期を変更しました。このため大学院生の皆様や関係部署にはお手数をお掛けすることになりましたが、ご理解とご協力を頂き、大きな混乱もなく無事終了することができました。

受検率については、看護学生は毎年全員が受検していますが、医学部学生の受検率は、これまで96%前後で数十名の学生が未受検となっていました。今年は健診期間中に受検した学生は606名（98.5%）、未受検者についても後日、呼び出し勧奨した結果、全員が受検しました。また大学院生についても学外で研修している者以外は全員が受検しました。

有所見者については学校医の判断に従い、再検あるいは受診の勧奨、生活指導を実施しました。

■ 特定業務従事者健診、特殊健診、長時間労働健診を実施しました

4月～5月に特定業務従事者健診、特殊健診（有機溶剤・特定化学物質使用者、電離放射線使用者）、長時間労働健診を実施しました。対象者約1,200名の内、未受検者数は1名となっていますが（6月末付）、年々受検率は高くなっています。

平成20年度インフルエンザワクチン接種申込について

インフルエンザの最も確実な予防は、流行前にワクチン接種を受けることです。今年度も下記のとおりインフルエンザのワクチン接種を予定していますので、希望される方は申し込んで受けて下さい。

ワクチンの管理の問題上、申し込みされた方のみ準備しますのでご注意下さい。

【申し込み期間】 平成20年9月16日（火）～10月8日（水）

【申し込み方法】 申し込み用紙に記入し、保健管理室まで提出して下さい。
教職員は各部署に申し込み用紙を配布しますので、各自記入の上、部署ごとに取りまとめて保健管理室まで提出して下さい。

【実　施　日】 医学生、看護学生：平成20年11月10日（月）～11日（火）
教職員他：平成20年11月12日（水）～14日（金）

【実施時間】 午後3時～4時30分

【場　　所】 保健管理室（総合研究棟1階）

■ 異なった種類のワクチン接種をする場合の注意

本学では①B型肝炎ワクチン事業（毎年6、7、12月）及び、②インフルエンザワクチン事業（毎年11月）を希望者に実施しております（①②とも不活化ワクチン）。異なったワクチンを接種する場合、各々のワクチンに定められた接種間隔を守るよう注意して下さい。

生ワクチン（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘など）	次の接種を行う日までの間隔は27日間以上
不活化ワクチン（B型肝炎、インフルエンザ、日本脳炎など）	次の接種を行う日までの間隔は6日間以上

■ 特定健診・特定保健指導の流れ

平成20年４月より新しい健診、特定健診・特定保健指導が始まっております。本学では、40歳から74歳までの私学共済事業団加入者（本人）および被扶養者（配偶者等の家族）に対し実施致します。本学職員に対しては、秋の定期健康診断に特定健診を導入致します。必ず健診を受検し、必要な方は特定保健指導を必ず受けて頂きますようご協力宜しくお願い致します。

特定健診　＜メタボリックチェック！＞

内臓脂肪型肥満

(1) 腹囲：男性 85cm 以上、女性 90cm 以上
(2) 腹囲：男性 85cm 未満、女性 90cm 未満
かつ BMI25 以上

①血糖
空腹時血糖 100mg/dl 以上または
HbA1c5.2% 以上

②脂質
中性脂肪 150mg/dl または
HDL コレステロール 40mg/dl 未満

③血圧
収縮期血圧 130mmHg 以上または
拡張期血圧 85mmHg 以上

④喫煙歴あり
①～③のリスクが１つ以上の場合にカウント

※服薬治療中の方は特定保健指導の対象としない

特定健康診査の項目（本学生活習慣病健診の場合）

○ 質問票（服薬歴、喫煙歴等）　○ 血圧測定
○ 身体診察　○ 検尿（尿糖、尿蛋白、尿潜血）
○ 身体計測（身長、体重、BMI、**腹囲**）
＊腹囲測定－今年度より導入
○ 血液検査
・脂質：中性脂肪、HDL コレステロール、
LDL コレステロール、総コレステロール
・血糖：空腹時血糖及び **HbA1c**
＊ HbA1c －今年度より導入
・肝機能：GOT、GPT、γ -GTP
・その他、貧血　等
○ 心電図　○ 胸部 X 線撮影　○ 視力　○ 聴力

＜メタボリック判定！＞

内臓脂肪型肥満（１）に該当
①～④のリスクが２つ以上➤積極的支援
〃　１つ以上➤動機づけ支援
〃　0　➤情報提供

内臓脂肪型肥満（２）に該当
①～④のリスクが３つ以上➤積極的支援
〃　１～２つ以上➤動機づけ支援
〃　0　情報提供

（動機づけ支援・積極的支援対象者には私学共済事業団から保健指導受診券が送られてきます）

特定保健指導　＜メタボリック改善！＞

＊情報提供
健診結果の説明や健康づくりに役立つ情報を提供
＊動機づけ支援
原則１回の面接による支援を受け、半年後評価
＊積極的支援
初回面接支援及び、３ヶ月以上の継続的支援を受け、中間評価と６ヵ月後評価を受ける
※指定医療機関に特定保健指導をもって受けに行くことになります。

＜被扶養者の方は・・・＞
H20 年７月に配布された案内書及び受診券を持参し、指定健診機関に受診して下さい（当面、費用は無料です）。

＜ 40 歳未満の方は・・・＞
従来どおりですが、35 歳の方のみ腹囲測定を新たに導入致します。

特定健診とは別に、40 歳以上の方は、大腸がん検診（便潜血反応検査）を希望すれば受けることができます。

◆大阪医科大学俳句会（五・六・七月）

春惜しむすなはちけまん描きける	山崎隆司
ふるさとは粽食ふなり半夏生	同
新駅やれんげ畑に鯉幟	今井雄介
梅雨明くる湖国山並皆揃ひ	同
麦秋や二つ峰ある近江富士	中川一成
夏薊次のバスなら二時間後	同
祭髪冠り物には鬢つめて	吉田孝江
凸凹の復員飯盒キヤンプの火	同
肩なだる肌の白さや夏の服	飯塚久子
待つ人に肩叩かるる熱帯魚	同
守らねばならぬ約束鳥雲に	美濃　眞
夜の刃をそつと入れられ夏蜜柑	同
黒南風や生垣高き土佐の村	宮脇芳美
白服の衛士の交替脚あげて	同

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は
〒569-8686　高槻市大学町 2 - 7
大阪医科大学
俳句会
皆様の参加をお待ちしております。

第39回市民フェスタ2008 **高槻まつり**に参加しました

● 別館の玄関庇補修工事について ●

登録有形文化財『別館』正面（写真）に向かって右側の柱に雨水の漏水跡が目立つことにお気づきの方も多いことと思います。調査の結果、南面デッキの雨水排水管が詰り、雨水が柱壁面（右写真）や入り口庇部分に浸透していました。上下から通水掃除を行うと同時に新たに会所を設けて排水を促し、デッキの表面に防水処理をいたしました。この排水管は正面入り口の右柱の中を縦に貫通しており、作業は困難を極めましたが、作業の過程でこの管が直径約80mmの銅管であることや地上約1,250mmの部分に接合部があることなどが明らかになりました。

柱全体を解体・復元するような莫大な予算はありませんが、限られた資金の中で文化財を出来る限り守る努力をいたしておりますので、今後とも皆様のご理解と募金事業へのご協力をよろしくお願いいたします。

詳しくはhttp://www.osaka-med.ac.jp/deps/trad/をご覧下さい。

表紙絵：『南天の花』
枝先に、やや黄色味がかった米粒大強のつぼみの先端部から小さい黄色の六弁花が顔を出します。正岡子規の俳句に『南天の実になる花と思はれず』とあるように、南天の色鮮やかな紅色の実に比べると、色も地味で目立ちません。南天の赤い実（実南天）は冬の季語ですが、南天の花は夏（仲夏）に咲きます。

大阪医科大学　名誉教授　冨士原　彰

個人情報の取扱について：

平成17年４月１日から個人情報保護法が施行されました。
これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。
なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。
学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学　総務部　学報編集担当係　電話　072－684－6218
E-mail：gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報　第77号
発行年月　平成20年８月
発　　行　学校法人　大阪医科大学
編集・発行　総 務 部
印　　刷　大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
http://www.osaka-med.ac.jp/